



● 特集 ●

日中平和友好条約締結 40 周年記念 日中大学生交流式典 開催

～次代を担う日中の大学生
500 人が交流しました～



日中友好会館は、日中平和友好条約締結 40 周年を記念し、2018 年 11 月 30 日に東京で「日中大学生交流式典」を開催しました。東京を中心とした 32 大学の日本大学生約 250 人、中国側は「日中植林・植樹国際連帯事業」日中大学生五百人交流団(4 頁後述)で来日した 22 大学の学生約 250 人、合計約 500 人が一堂に会し、交流しました。

式典と夕食交流会の二部構成で行われ、日中大学生による素晴らしいパフォーマンスが披露されたほか、学生たち一人ひとりが 10 年後の未来に向け、日中平和友好条約締結 50 周年を迎える未来の日中関係や、日本と中国の未来の大学生に向けて書いた一言メッセージ、メッセージをイメージして描いたイラストなどの“未来への message”が紹介されました。辻清人 外務大臣政務官、中華人民共和国駐日本国大使館 楊宇公使参事官も若者に向けて祝辞を送りました。

より身近で親しい国へ ——

日中大学生同士が共に日中関係について考え、語り合い、笑い合い、相互理解の大切さを改めて認識することになった一日。大学生たちは、自分たちがこれからの新しい日中関係を築いていこうと、決意を新たにしていました。



◆日中大学生による素晴らしいパフォーマンスの競演



「日中大学生交流式典」では、日中それぞれの大学生がこの日のために練習を重ねてきた素晴らしいパフォーマンスを披露しました。はじめに明治大学三曲研究部(写真右下)が、琴・三味線・尺八で日本の美しい“和”の音色を奏で、続いて湖北省大学生(左写真)が、日本でも有名な『時の流れに身をまかせ』や、友情が末永く続くようお願いを込めた『友誼天長地久』など中国の歌を披露、早稲田大学混声合唱団(前頁左下写真)による瀧廉太郎作曲『花』のアカペラでは、桜咲く春を思い起こさせる素晴らしいハーモニーが会場を優しく包み込みました。

最後は色鮮やかな少数民族の衣装を纏った雲南省大学生(左下・中央写真)が、迫力ある伝統舞踊と歌で喝采を浴び、会場をおおいに盛り上げました。

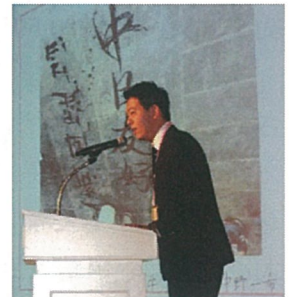


◆未来へのメッセージ ～ 10年後の未来に向けて

早稲田大学法学部の中野一希さん(写真右下)と、武漢大学日本語専攻の黄煌さん(前頁上段写真/右下)の2名が、両国大学生を代表し“未来へのメッセージ”を発表しました。

中野さんは「我喜欢青岛啤酒!!(私はチンタオビールが好きです)」の一言で会場の笑いを取った後、大学の国際寮で2年間同室だった中国人留学生と過ごした経験を話しました。「自身にとって初めての身近な中国人。共に生活を営むことは新鮮な体験だった。毎夜語り合い、一緒に旅をする中で絆を育み、今では最も尊敬する先輩であり友人となった。異なる国の出身でも、お互いが顔を合わせて語り合えば必ずや通じ合える」と、相互理解の重要性を訴えました。

黄煌さんは、パンダとトキが会話しているイラストを見せながら、「中日両国は近隣として、時々喧嘩をしたり、揉め事を起こすかもしれないが、お互いにとって大切な存在。これからも仲良くしていけば、きっともっといい友達になれる」と、力強く語りました。



～未来への message～ ほんの一部をご紹介します



◆「日中植林・植樹国際連帯事業」日中大学生五百人交流団

今回の式典に参加した中国大学生は、2018年11月25日から12月1日までの7日間で来日した日中大学生五百人交流団(団長＝林怡 中国人民対外友好協会 副会長)の252名で、外務省が推進する「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として招聘しました。

「地方間交流」をテーマに、日本の各自治体と友好交流提携を結ぶ5地域(※下記)の中国大学生で構成され、「日中大学生交流式典」への参加のほか、環境・防災に関するセミナー・視察、友好交流自治体への表敬訪問や植樹活動、大学生との交流、各地域の魅力や特色を体感でき



島根大学での交流

福井県でのホームステイ

る視察・参観・体験等を行いました。7日間のさまざまな活動を通し、日本と中国、また地方間同士のつながり、日中青年同士の絆を深めることができました。(※寧夏回族自治区＝島根県、湖北省＝長崎県、雲南省＝岩手県、浙江省＝福井県、河南省＝三重県)



日中大学生対話に参加

式典同日には、代表学生が日本大学生とともに「日中大学生対話」に参加しました。日中合計約30人で、「2020年東京五輪・2022年北京冬季五輪開催を通じて、日中の青年同士の交流を増進するためには、どういった協力ができるか」をテーマに意見交換をしました。

<中国大学生の感想>

- ・日本に対する印象がすっかり変わりました。訪日前は、四方を海に囲まれ災害が頻発する小国というだけの認識でしたが、日本や日本人の素晴らしい点をたくさん発見することができました。
- ・この数日間で日本が好きになりました。がんばって大学院に合格し、また日本へ来たいです。
- ・植樹活動がとても有意義でした。中日関係の未来を象徴する木の苗が丈夫に成長する姿を見ることは大きな希望です。
- ・ホームステイ体験では、日本の家庭に入り、積極的に交流できました。温かい家庭の雰囲気素晴らしかったので、自分も携帯電話を置いて、自分の家族と交流しようと思いました。
- ・帰国後はSNSを通じて自分が体験したことをそのまま伝えたいです。先入観や偏見を捨て、人の言うことを鵜呑みにせず、自らの目や耳で見聞きするよう勧めたいです。そうすれば友好的で調和の取れた、心の通い合う中日交流の環境を作ることができると思います。
- ・中日両国の大学生が今後の両国関係に明るい希望を抱いていることが感じられました。私たち若者は国家建設の主力です。このような交流の機会が増えれば中日両国のわだかまりも早く解決し、両国関係は更に発展すると思います。

◆2019年「日中青少年交流推進年」をスタートに
5年間で3万人の青少年交流

昨年10月、北京での日中首脳会談において日中両国政府は、2019年を「日中青少年交流推進年」と銘打ち、今後5年間で3万人の青少年交流を進めていくことを合意しました。日中友好会館総合交流部は、これまでの経験とノウハウを活かし、「日中青少年交流推進年」の一翼を担うべく、より一層努力してまいります。

